

## 永田老人クラブ（屋久島町）

発表者：柴 克也 氏

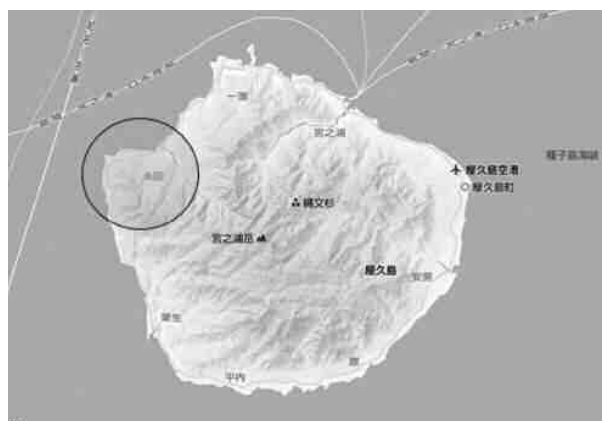
皆さんこんにちは。私は、屋久島町永田老人クラブの会長をさせていただいております柴克也と申します。

本日は、このような活動報告の機会をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

### 1 はじめに

永田集落の位置をお知らせしたいと思います。

皆さんご承知のように、屋久島は日本で最初に世界遺産に登録された島であります。その北西端に永田集落はあり、九州で2番目に高い永田岳を有しています。標高1,886メートルの山から下りてくる



風・水は、屋久島のポンカンやタンカン、トケイソウ、シイタケ、各種野菜などの豊作をもたらしてくれています。目の前の口永良部島に沈む夕日はとても美しく、永田浜には毎年4月から7月までウミガメが産卵に訪れますが、多い日は一晩で100頭を超える日もあります。この浜には前浜、いなか浜というきれいな砂浜がありましてウミガメの産卵地になっています。このような風光明媚で歴史と文化が繋がる集落ですが、少子高齢化と人口減の大波を前に区民が一体となって今後の方向を探らなければならない状態にあります。今年4月末現在で集落の人口は443人、世帯数は245世帯、そのうち65歳以上が215人で高齢化率は48.5%となっています。

次に、永田老人クラブについてですが、私が携わるまでは役員のなり手がなく休眠状態でしたけれども、今から8年前に皆さんをお誘いして老人クラブを立ち上げ、会長を務めさせていただいています。10年近くを経て、現在では高齢者同士の交流や共助の必要性が声高に言われるようになり、新役員も再選されて今日に至っています。

それでは、永田老人クラブの主な活動を紹介させていただきます。

## 2 地域貢献活動

県道沿いにある2か所の花畑は、永田岳から集落を二分して流れてくる永田川を挟んで向江地区、叶地区にあり、老人クラブの会員が管理しています。花が咲いているときに観光客の皆さんが車を止めて、「ああきれいだね」と言って写真を撮っている姿を見ると、やってよかったとみんなで喜んでいるところです。



## 3 生きがい交流活動

まず、「みんなで遊ぼう」その1としまして、ボランティアグループサロン中地「あんぼや」を開催しています。「あんぼや」は永田地区の方言で「遊ぼうか」が語源となり、「あした何もなかったらあんぼや」というふうに使います。千葉県から移住してこられた吉村



さんという大きな病院で長いこと看護婦長さんをされていた方のご協力を得て、平成27年8月27日に屋久島町振興事業として永田地区に「あんぼや」が発足し、高齢者を中心に毎回25名から30名が参加して体操や将棋、囲碁、ゲーム、カラオケなどを楽しんでもらっています。皆さんもご承知だと

思いますが、おはら節とかハンヤ節をカラオケでやると止まらないですね。みんな公民館の中で踊り出すというような状況で、あと5分ですよと時間を制限されても歌いながら一生懸命踊って楽しんでいます。



次に、「みんなで遊ぼう」その2としま

して、毎年5月に老人クラブの総会を開催しますが、その2時間前に永田公民館の中地公園でグラウンドゴルフ大会を行っています。なぜ5月に総会かといいますと、町の補助金や区の補助金の予算が決まらないと会計が予算を組めないということからです。

#### 4 健康・学習活動



「学ぶ」その1としまして、屋久島徳洲会の前田先生を中心にお招きし、健康予防や腰痛体操、足の痛みを和らげる体操を教えてもらっています。また、屋久島警察に毎年春と秋に交通安全講習会をお願いしています。先般、大きな松林のある中地公園で、夜ライトつけて人がどこまで見えるか位置

の確認を勉強させてもらいましたが、普通、道路だったら30メートルぐらい先まで見えますけれども、松林の暗い所では30メートル先ですと黒い服を着ていたら何も見えません。警察官が懐中電灯を照らして、やっと人がいることが分かりましたが、そういう貴重な体験も踏まえて交通事故防止に一生懸命役立てていきたいと思います。

「学ぶ」その2としまして、年1回バスツアーで屋久島内の景勝地や各種工場などを見学しています。昨年度は焼酎の三岳工場を見学させてもらいましたが、そのときに麴米にタイ米が使われ、三岳焼酎には一番合っているということを教えてもらいました。工場によって違うと思いますが、屋久島でも外国の米を使っているということを知ることができました。次回は屋久島電工というタングステンを作っている工場を見学させてもらえないか、現在打診しているところです。

#### 5 ふれあい・要望活動

永田の子どもたちとの交流についてですが、昔遊びとして、地面に書いた囲碁基板で石ころや竹、センダンの実が落ちた軸を使い挟み将棋みたいなものやったり、地図を書いてじゃんけんで勝った者が手の広さで陣取りする国盗りといいま





すか、島盗り合戦をやって子どもたちに喜んでもらっています。

次に、バス料金の低料金化についてですが、永田地区には普通の小さなお店はあるものの、スーパーがなく、生鮮食料品などを買おうとすれば、車で35分かけてフェリーが着く宮之浦まで行かなければなりません。私が大阪から帰郷する前に、買い物に行った高齢者のご夫婦2組が橋の欄干にぶつかって亡くなり、1組は私の遠い親戚にあたる人でした。どうしても高齢者の交通事故を防ぎたいという思いから、宮之浦まで1回200円位で乗せてもらえるよう屋久島交通に陳情するとともに、町に対しても屋久島町連合会も一緒になって陳情書を提出したところでした。その結果、6月議会で1人の反対者もなく全員一致で可決され、町でも来年4月を目途に交渉していただくことになっています。

最後になりましたが、高齢化のスピードがとても速くなり、老人クラブの会員は70歳からかと思えますけれども、65歳に下げても少なく、60歳になって会社の定年や仕事を辞めた人たちにお願いして、やっと80名を確保しているところです。これから先は60歳代の会員をどうやって増やして老人クラブを盛り上げていくかが一番の課題です。

ご清聴ありがとうございました。